

私の履歴書

前橋 汀子

⑦

せてもらった。

ドイツ帰りの先生の生活は欧州スタイルだったが、別荘は畳敷きで、私たち生徒は持参した布団を並べて雑魚寝していた。朝になると、寝入っている生徒たちの上を先生がまたぎながら「おい、みんな起きろー」と叫んで回るのだった。

合宿には母親たちも炊事係

本質伝える大切さ教わる

学校新聞に載った「希望の灯」

斎藤 秀雄 先生

中学生になると、小野アナ先生のレッスンと並行して東京都調布市の仙川にある桐朋学園「子供のための音楽教室」にも通うようになった。音楽評論家の吉田秀和先生や指揮者の斎藤秀雄先生らが設立した音楽教室だ。

アンナ先生の門下生がたぐさんいたから、私も自然な成り行きで教室の一員になった。毎週土曜の午後、新宿駅から出ていた送迎バスに乗って仙川に通った。

ここで私は斎藤先生の薫陶を受けることになる。先生から直接手ほどきしていただけたのは、私の世代がほとんど最後であろう。

であって、大切なのは音楽の本質を伝え聴かせること。それを片時も忘れるんじゃないぞ……。そんな言葉を何度耳にしたことだろう。

夏になると、音楽教室の合宿で群馬県の北軽井沢に行った。小学校の校舎を借り、オーケストラの練習をするのだ。私を含む年少の生徒数人は北軽井沢の照月湖近くにあった先生の別荘で寝泊まりさせ

別荘まで母をスクーターに乗せてくれたのだそう。小澤さんには、その後も折に触れて貴重なアドバイスをいただくことになる。



北軽井沢の合宿で
(手前左端が筆者)

祖母の弟がチャブレン（学校付きの牧師）をしていた関係で杉並区の立教女学院に入っ

あの日、私は誰に相談することもなく、マーガレットの花束を持って、一人で女学院の担任の先生のお宅を訪ねていった。青森から出てきたばかりの若い女性教師だった。

「辞めます」と頭を下げ、大泉の自宅に帰ってきた。両親に「いま辞めてきた」と言ったのを覚えている。何という中学生だろう。

2年から近くの練馬区立石神井中学に通った。当時の学校新聞のコラム「初夢」に私の寄せた一文が載った。

「小さい希望の灯を初夢でせめて大きく燃やそう。自家用人工衛星に乗って世界中の音楽の都を訪ね。ベートーベン、モーツァルトには是非面会。シベリウスとはゆっくり話し合いをしてこよう」。私の「希望の灯」は、現実のものとして燃え上がっていく。(バイオリニスト)